

## 民間のイニシアティブを重視した地域振興方策に関する調査

### 第4回 検討委員会 議事概要

1. 日 時 平成19年3月13日(火) 12:30~14:30

2. 場 所 米子コンベンションセンター 5階第5会議室

#### 3. 出席委員(敬称略)

岡崎委員長、石村、鈴木、田口、平田、毎熊、柳沢、渡部、佐藤、友森

#### 4. 議事

- (1) パイロット事業の進捗状況と成果について
- (2) 調査報告書(素案)について
- (3) その他

#### 5. 議事概要

##### (1) パイロット事業の進捗状況と成果について

- ・ 中間支援組織の取り組みは評価できる。「ミステリアス・神秘」を地域イメージの一つとしたサイト情報の充実、一般の方からの地域情報を募集する市民投稿サイト新設等に関して支援を受け、この地域になかった機会を提供できたことが評価できる。全国的にも汎用できるモデル的な取り組みだと考えている。
- ・ 地域で生活を営んでいる人が、ポータルサイトへ質の高い地域情報を提供する特派員となると、持続的に魅力あるコンテンツ供給が可能となる。
- ・ 講演会・交流会については、行政区域を越えた範囲において多様な主体を集めて実施した結果、地域間や主体間の交流等の新しい動きがでてきた。
- ・ インターネット相談システムについては、早急に進めすぎた面もあり、サイトの信頼感や熟度を見極める必要があったのではないかと思う。
- ・ インターネット相談システムについて相談事項が少ないという分析をしているが、ニーズが顕在化していないだけではないか。
- ・ 市民投稿サイトに実際に投稿してみたが、アクセス数が多いことには驚かされた。やはり簡単に参加できることが大きいのだと思う。段階的に参加を促す仕組みが必要だろう。
- ・ パイロット事業でインターネットを介して気楽に情報収集発信できるようになってきたのは評価できる。中間支援組織がこの仕組みづくりを支援したことも評価できる。
- ・ フェイス・トゥ・フェイスの場は重要である。インターネットの活用とあわせて、交流会、会議、共同事業でも良いので中海・宍道湖・大山圏域で顔を合わせる機会を並行して確保する必要がある。

## (2) 調査報告書（素案）について

- ・ 報告書がわかりにくい。本調査の圏域に関わる内容と一般論をわかりやすく分ける必要がある。
- ・ 中間支援組織には、いろんなタイプがあるという前提の後に、本調査を通して見えてきた中間支援組織像を書くときよいのではないか。
- ・ 中間支援組織の機能は6つ提示されているが、特にどの機能が重要なのか（必須機能と選択機能の別など）を示す必要がある。
- ・ 中間支援組織の機能を整理するレベルが一定ではない。情報収集発信機能と代行機能は横並びではない。抽象的な機能と個別具体の機能はレベルを分けて書く必要がある。
- ・ 情報収集発信機能のところ「目的の総合化」とあるが、意味がわかりにくいので別の言葉に置き換えられないか。
- ・ 本圏域の中間支援組織には、ぎふNPOセンターの資金・人員の規模を備えられないので、多くの機能や事業を担うことは難しい。
- ・ ぎふNPOセンターが複数の中間支援組織を束ねて各種の連絡調整を行っている点は参考になる。
- ・ 中間支援組織の要件についても、この地域で考えられる中間支援組織のモデルに照らし合わせて合致するのか否かの精査が必要である。
- ・ 中間支援組織の「継続性」は「中立性」「信頼性」を担保するものであるからこそ、中間支援組織は自主財源で運営することが望ましいのではないか。
- ・ 国として中間支援組織をどう評価し、今後どのように育てていくのかという点に踏み込むと地元にも意欲が湧き、役割分担も明確になるだろう。

(以上)